

2017年11月14日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 7-1-5
www.lilly.co.jp

EL17-59

経口糖尿病治療薬服薬中の2型糖尿病患者さんの残薬に関する調査

2型糖尿病患者さんのうち、残薬がある人は33.1%

残薬がある患者さんには「楽観的志向」や「治療あきらめ志向」の人が多く、
3人に1人は残薬を医師に申告していない

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン、以下、日本イーライリリー)は、経口糖尿病治療薬服薬中の2型糖尿病患者さん2,942名を対象に残薬に関する調査を実施しました。

今回の調査の結果、経口糖尿病治療薬服薬中の2型糖尿病患者さんのうち、経口糖尿病治療薬について「残薬あり」と回答した患者さんは33.1%に上りました。また、残薬がある患者さんの服薬回数は「1日に3回以上」(40.2%)が最多となり、困っていることについて伺ったところ、1位「薬の種類が多い」(26.3%)、2位「一度に飲む量が多い」(22.4%)、3位「タイミングを守ることが難しい」(17.5%)と薬の量や種類の多さ、服薬のタイミングに関する項目が上位となりました。さらに、医師に残薬があることを申告しているか聞いたところ、残薬がある患者さんのうち34.7%は申告をしていないと回答し、3人に1人は残薬を申告していないことがわかりました。

「病識・治療態度」と「生活スタイル・性格」に関する回答を、因子分析を用いて分析し、患者さんを6つのタイプに分けたところ、経口糖尿病治療薬の残薬が生じている患者さんには2つの傾向がみられました。1つ目は「楽観的志向」で、自分は軽症で服薬管理は難しくないと考えており残薬が生じている患者さん。2つ目は「治療あきらめ志向」で、多忙なために服薬管理が難しいと考えて、現状にあきらめを感じており残薬が生じている患者さんでした。

また、処方されている経口治療薬すべて(経口糖尿病治療薬とそれ以外の薬)において、直近1カ月で医師の指示通りに服薬しなかったことがある患者さんに服薬しなかった理由を伺ったところ、1位「特に理由はないが、ついつい忘れてしまう」(56%)、2位「外出の際に持っていくのを忘れてしまう」(39%)、3位「食事のタイミングが不規則で、飲むタイミングを逸してしまう」(24%)という結果になりました。

今回の結果から、2型糖尿病患者さんが治療に取り組む上で、食事のタイミングや外出などライフスタイルに課題を抱えている可能性があるとともに、残薬が生じる患者さんのタイプがあることが示唆されました。

この結果について、横浜市立大学 分子内分泌・糖尿病内科学教室 教授 寺内康夫先生は、「糖尿病は進行すると網膜症・腎症・神経障害などの合併症を引き起こすリスクが高まりますので、継続して治療に取り組むことが大切です。今回の結果から、忙しい現代社会の2型糖尿病患者さんは、不規則なライフスタイルなどが原因で、思い通りの薬物治療を継続できていない方がいることがわかりました。服薬アドヒアランスを高めるためには、『服薬回数・種類の減少』や『一包化』などの対策とともに、患者と医療従事者の双方向のコミュニケーションを通じて、服薬遵守の重要性についての理解促進や、あきらめ感の払拭などが必要とされていることが考えられます」と述べています。

※服薬回数について:

本調査での服薬の回数は、1日に複数回または1日に複数種類の服薬をしている場合、それらを合算した延べ回数として集計しています

【2型糖尿病患者さんの残薬に関する主な結果】

<経口糖尿病治療薬の残薬状況>

- ◆ 経口糖尿病治療薬について「残薬あり」と回答した患者さんは33.1%に上った【図1】
- ◆ 残薬がある患者さんの服薬回数は「1日に3回以上」(40.2%)が最多であった【図2】
- ◆ 残薬がある糖尿病患者さんに困っていることを伺ったところ、1位「薬の種類が多い」(26.3%)、2位「一度に飲む量が多い」(22.4%)、3位「タイミングを守ることが難しい」(17.5%)であった【図3】
- ◆ 残薬がある患者さんのうち34.7%は医師に残薬があることを申告していない【図4】
- ◆ 残薬が生じる患者さんは「楽観的志向」と「治療あきらめ志向」の2つの傾向があった【図5】

<2型糖尿病患者さんの服薬状況>

- ◆ 処方されている経口治療薬すべて(経口糖尿病治療薬とそれ以外の薬)において、直近1カ月で医師の指示通りに服薬しなかったことがある患者さん481名に、指示通りに服薬しなかった理由を伺ったところ、1位「特に理由はないが、ついすっかり忘れてしまう」(56%)、2位「外出の際に持っていくのを忘れてしまう」(39%)、3位「食事のタイミングが不規則で、飲むタイミングを逸してしまう」(24%)であった【図6】

【調査概要】

調査目的： 2型糖尿病患者さんを対象に、経口糖尿病治療薬の残薬の有無に影響する因子を明らかにする

調査対象： 20歳以上で医師から2型糖尿病の診断がなされており、かつ現在通院中で薬物療法を行っている患者さん(2,942) ※内訳は以下の通り

北海道(118)	青森県(33)	岩手県(52)	宮城県(105)	秋田県(33)
山形県(41)	福島県(52)	茨城県(106)	栃木県(54)	群馬県(54)
埼玉県(111)	千葉県(112)	東京都(126)	神奈川県(111)	新潟県(56)
富山県(34)	石川県(33)	福井県(40)	山梨県(31)	長野県(53)
岐阜県(51)	静岡県(112)	愛知県(114)	三重県(55)	滋賀県(33)
京都府(104)	大阪府(113)	兵庫県(108)	奈良県(57)	和歌山県(35)
鳥取県(34)	島根県(48)	岡山県(53)	広島県(107)	山口県(33)
徳島県(38)	香川県(34)	愛媛県(35)	高知県(38)	福岡県(110)
佐賀県(40)	長崎県(32)	熊本県(34)	大分県(47)	宮崎県(45)
鹿児島県(33)	沖縄県(44)			

※()の中は有効回答数

調査地域： 47都道府県

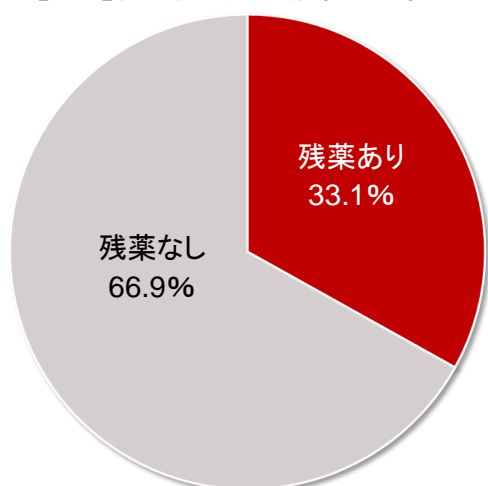
調査手法： インターネット、郵送または訪問留置による調査(株式会社メディリード)

調査時期： 2017年4月24日～5月16日

備考： ウェイトバックを実施

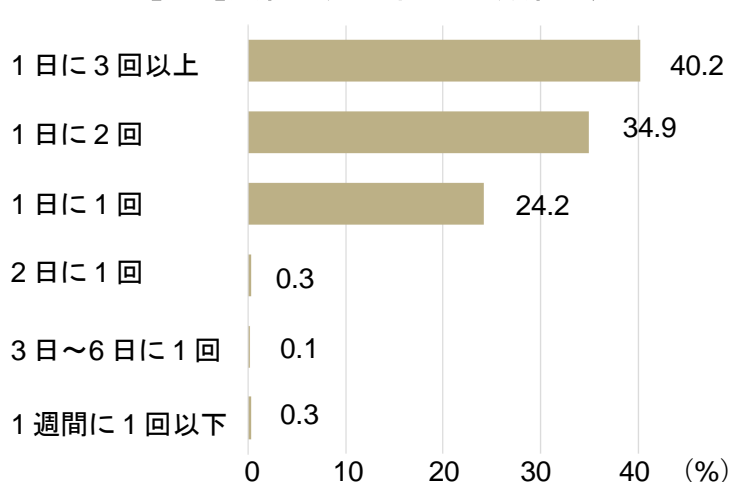
【主な調査結果】

【図1】経口糖尿病治療薬の残薬の状況



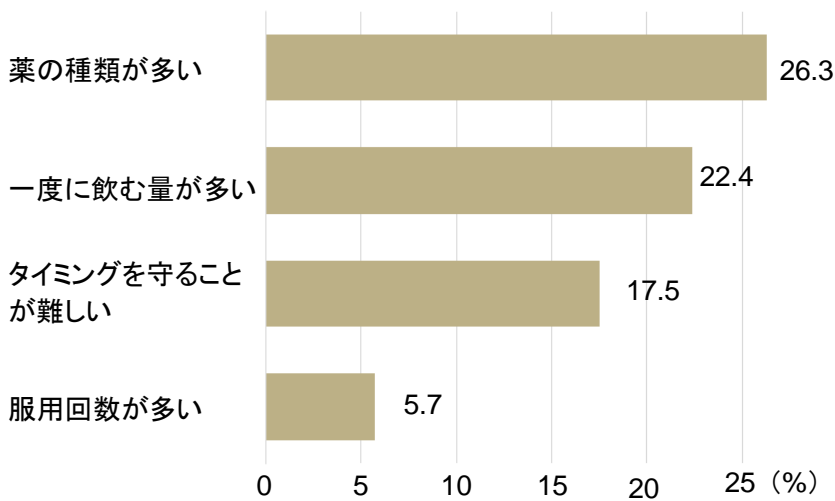
(n=2,924) ※未回答者除外

【図2】残薬がある患者さんの服薬回数



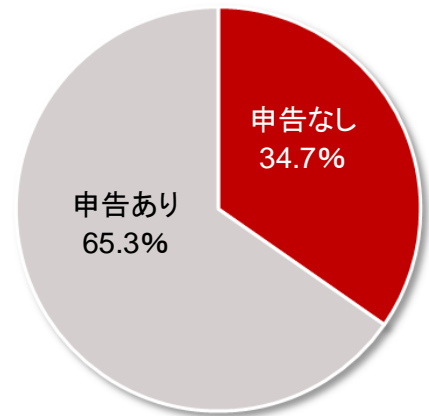
経口糖尿病治療薬の残薬がある2型糖尿病患者さん(n=967)

【図3】残薬がある患者さんの困りごと



経口糖尿病治療薬の残薬がある2型糖尿病患者さん(n=967)
※複数回答

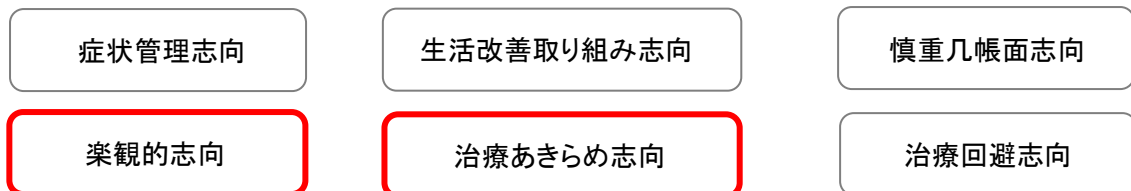
【図4】残薬がある患者さんの残薬申告状況



経口糖尿病治療薬の残薬がある2型糖尿病患者さん(n=967)

【図5】2型糖尿病患者さんの6つタイプ

「病識・治療態度」と「生活スタイル・性格」に関する回答を、因子分析を用いて分析して、2型糖尿病患者さんを6つのタイプに分類しました



経口糖尿病治療薬の残薬が生じている患者さんには「楽観的志向」と「治療あきらめ志向」の2つの傾向がみられました

＜楽観的志向＞

■特長

自分は軽症で、服薬管理は難しくないと考えており、服薬遵守の重要性を軽視しがち

- ・ 自分の病気は、毎日の服薬が欠かせないほど重くはない(55%)
- ・ 治療に関する医師からの指示は、ほとんど守れている(80%)
- ・ 治療に影響するほど、薬の飲み忘れはしていない(86%)

＜治療あきらめ志向＞

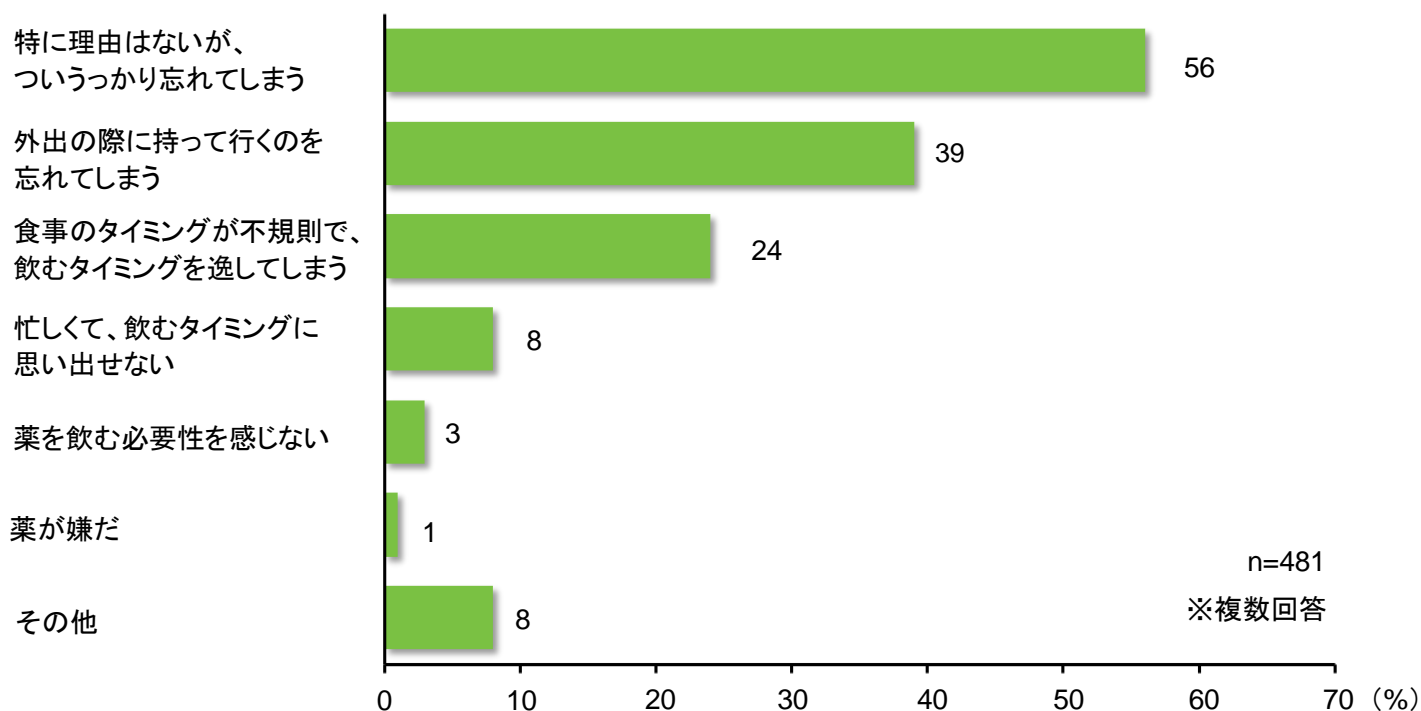
■特長

フルタイム就業などで生活が多忙で、服薬管理は難しいと感じており、自分の病態の現状をあきらめている

- ・ 週に7回以上は外食をする(26%)
- ・ 仕事がとても忙しい(38%)
- ・ 以前より病気が進行してきていると感じる(36%)

※箇条書きの項目は、「病識・治療態度」と「生活スタイル・性格」に関する質問のうち、「そう思う」の回答が他のタイプよりも多かった主な項目

【図 6】処方されている経口治療薬すべて(経口糖尿病治療薬とそれ以外の薬)において、直近 1 カ月で医師の指示通りに服薬しなかったことがある患者さんが指示通りに服薬しなかった理由



イーライリリー・アンド・カンパニーの糖尿病事業について

イーライリリー・アンド・カンパニーは 1923 年に世界で初めてインスリン製剤を開発して以来、糖尿病ケアの分野において常に世界をリードしてきました。現在も、糖尿病をもつ人々やケアを行う人々の様々なニーズに応えることで、この伝統を築いています。研究開発や事業提携、拡大し続ける幅広い医薬品ポートフォリオ、そして、医薬品からサポートプログラムをはじめとする実質的なソリューションを提供し続けることを通じて、世界中の糖尿病をもつ人々の生活の改善に努めます。

詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.lillydiabetes.com>

イーライリリー・アンド・カンパニーについて

イーライリリー社は、世界中の人々の生活をより良いものにするためにケアと創薬を結び付けるヘルスケアにおける世界的なリーダーです。イーライリリー社は、1世紀以上前に、真のニーズを満たす高品質の医薬品を創造することに全力を尽くした1人の男性によって設立され、今日でもすべての業務においてその使命に忠実であり続けています。世界中で、イーライリリー社の従業員は、それを必要とする人々の人生を変えるような医薬品を開発し届けるため、病気についての理解と管理を向上させるため、そして慈善活動とボランティア活動を通じて地域社会に利益を還元するために働いています。詳細はウェブサイトをご覧ください。 www.lilly.com および <http://newsroom.lilly.com/social-channels>

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。

詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.lilly.co.jp>